



大学2・3年生は、コロナ禍の大学をどう見ていたのか？

文学部生による聞き取り報告「コロナ禍と大学」を開催

7/26 (月) 16時50分～@阪大豊中キャンパス・日本学棟

❖ 概要

周知のとおり、コロナ禍により大学のあり方は激変しました。

授業のオンライン化や課外活動の制限をはじめ、大学と学生との関係は現在も重大な問題であり続けています。同時に、このパンデミックは歴史的事態でもあり、この目まぐるしい変化の時期がどのように生きられたのかは、将来にむけて記録しておく必要があります。

大阪大学文学部日本学専修で実施している授業「日本文化学演習」では、本年度「コロナと大学」をテーマに、大学関係者に聞き取り調査を行いました。

7月26日(月)に行う演習の最終回ではその結果報告のためにプレゼンテーションの機会を設けます。コロナにより激変した大学生活のなかで、当事者である学生が、以下のように自ら設定したテーマで調査し、そこからわかったことについて述べます。

受講生のほとんどは大阪大学の2・3回生になります。コロナでまったく変わってしまった学生生活を、彼・彼女らがどのように捉え直したかに触れていただければ幸いです。

❖ 発表主題

- ・大阪大学の活動基準の設定
- ・留学生担当教員の活動
- ・生協食堂の運営
- ・令和2・3年度入学式
- ・「自粛」期間中の学生生活
(各班10分発表×10分質疑)

■ 開催場所等

- 【日時】7月26日(月) 16:50 ~ 18:35
- 【場所】大阪大学豊中キャンパス 日本学棟4階 405実習室
- 【対象者】受講生・教員(+事前連絡をいただいた方:定員管理
の実施の関係で事前連絡をお願いします)
- 【講演者】 受講生

■ 担当教員の専門分野について

安岡 健一 (Yasuoka Kenichi) <https://researchmap.jp/read0147438>

1979年生。日本近現代史、とくに地域社会の歴史について。(主な業績に『「他者」たちの農業史』京都大学学術出版会、2014年)研究方法としてオーラルヒストリーに関心を持ち、現在、日本オーラル・ヒストリー学会研究担当理事。